

就いて見ると其の性質は教義の研究からは勿論、其の他の諸方面からも極めて重要なものであつて、彼の羅振玉氏によりて出版された北京に在る摩尼經や、前記の摩尼光佛教法儀略、其の他パーラギー、ソグド、トルコ語などで書かれたこの教義の殘經と對照して發明する點が甚だ多い。内容の項目だけでも矢吹博士の抄出されたものゝ後に接して尙歎无上明尊偈文、法王作之。歎五明文、諸慕闍作(兩疊)。歎明界文、凡七十八章、分四句、未冒慕闍撰があり、以下更に多くの偈文を載せて一々之を用ゐる場合を示し、第一、旬齋結願用之。第二、凡常日結願用之。此偈讚明尊訖末後結願用之。此偈讚日光訖末後結願用之。此偈讚夷數訖末後結願用之。此偈讚忙你佛訖末後結願用之。此偈凡莫日用爲結願。此偈凡至莫日與諸聽者懺悔願文。此偈結諸明願而乃用之。此偈爲亡者受供結願用之。此偈你逾沙懺悔文と見え、また博士がその最初の項として「讚夷數文」と記されたのは「□□□覽讚夷數文」とすべきであり、其の他に誤植も存する。□□□覽讚夷數文を始め、其の他の偈文に依ると摩尼教に於る耶蘇の位置の甚だ密接の關係に在つたものであることを、今更の事ながら觀取し得られる。「唯願夷數降慈悲 解我離諸魔鬼縛 現今處在火坑中 速引令安清淨地」などは若し單獨に此だけの斷簡が現はれたとすれば、恐らく何人も景教經典の禮讚の一句だと斷定するに躊躇しないだらうと思ふ。

また殘卷中にはパーラギー語の偈讚をそのまま漢字で音譯したものが三篇挿入せられてある。第一は殘卷の首部、□□□覽讚夷數文の前に接して記さるゝもので、殘存の五行中上部を殘缺してゐるが、其餘の二篇は完全に存し、第二の偈の初には「次偈宜從依梵」と記し、第三の偈の初には「初聲讚文夷數作、義理幽玄、宜從依梵」と記されてある。梵といふのは此の場合無論パーラギー語を指すものであり、讚文夷數は讚夷數文の誤で、作字の上